

まほろば

2013.12
第148号

第5回クリティカルパス大会を開催して

平成25年11月25日に第5回クリティカルパス大会が開催されました。クリティカルパスは診療目標を明確化し、診療内容が項目別・経時的に詳細に盛り込まれた予定表のようなものです。患者様用パスと医療者用パスから構成されていますので、検査を受けたり入院されたりした方はご存知でしょうし、各部署のパスは病棟のエレベーター前に展示されていましたのでご覧になった方も多いことでしょう。

パス大会とはパスに関する活動を発表することによりパスの見直しを図り、医療の質を向上していこうという活動で当院では年一回開催しています。

当日は医師、看護師をはじめ56名の参加があり、優秀パス表彰の後、展示パスに対し担当部署からアピールポイントが説明され、パス委員から改善ポイントや修正箇所を医師、看護師、薬剤師と事務職員がそれぞれの立場で提言しました。

今年の講演テーマは「患者状態適応型パス」です。「患者状態適応型パス」とは刻々と変化する

状態に対応しガイドラインや治療指針に基づいた医療を安全に提供するため、ユニットを乗り継ぎ、最終目標である退院や治療の終了を目指すために工夫されたパスのことです。「患者状態適応型パス」では、予め疾患の重症度や治療経過により予測される状態毎に適応基準、終了基準を明確にしたユニットパスを作成し、アルゴリズムを作成する必要があります。

母子医療センターでは今年、作成が難しいとされる出産関連の患者状態適応型パスを作成し、発表してくれました。参加者から「患者状態適応型パス」に興味が持てた、理解できたと好評でした。パス大会は医療従事者向けの活動ですが、結果として弘前病院の医療の質保障の向上に直結するものです。今後もパス活動を通じより良い医療を提供できるようクリティカルパス委員会として活動してまいります。

クリティカルパス委員会委員長：黒田 令子

第5回 弘前病院 パス大会

日時：平成25年11月25日（月）
18:00～19:15

場所：大会議室

プログラム

- (1) 優秀パスの表彰
- (2) 評価
- (3) 講演

「患者状態適応型パス作成の
経過と使用後の現状」
母子医療センター

クリティカルパスの展示
11月11日より各部署のクリティカルパスをエレベーターホールにて
展示します。

クリティカルパス検討部会



「消防訓練」



11月12日に今年度2回目となる消防訓練を行いました。今回は前回と異なり、病棟での夜間想定での訓練となります。

「通報伝達」「初期消火」「避難誘導」等その目的は日中の場合と同様でも、限られた人数で対応しなければならないため、大きく変わってきます。

応援で駆けつける職員もいますが、基本的には出火時点で勤務している職員で、患者様の避難を行わなければなりません。当日は看護学校の学生を模擬患者に見立てて、準夜勤務の職員、当直の職員、病院宿舎からの応援者で訓練に当たりました。

福岡市整形外科医院での火災の記憶も新しく、私たち医療に携わる者として患者様の生命と安全を守る事は、第一に考えなければいけない事であり、このような訓練の繰り返しと検証を行うことで、万一の災害の際にも迅速に対応することができるよう、日頃から心掛けるようにしていきたいと思います。

庶務班長：佐藤 博之

消防立入検査を受検して

10月22日（火）に、弘前消防本部予防課4名の消防職員による立入検査を受検しました。本検査は、消防法第4条に基づく消防対象物の位置、構造、設備及び管理状況の検査です。

当院では、万一手火災が発生した場合に備えて、避難経路の確保や消火・避難・通報体制の確保のため消防訓練等を行っています。

今般の立入検査にて、防火・防災対策を再認識することができ、当院にとって大変有意義な検査です。

これからも弘前消防署と連携し、防火対策のみならず大規模地震災害等に対応した防災管理体制の充実を目指し、防火・防災安全対策に万全を期してまいります。

管理課長：加藤 久弥





平成25年度

青森県国民保護共同実動訓練に参加して

11月7日弘前市総合運動公園にて、青森県国民保護共同実動訓練が行われました。今回の実動訓練は、放射性物質を含む爆弾(ダーティボム)によるテロで多数の死傷者が出了との想定で行われました。実動訓練では、国・県・弘前市から56関係機関の約1,100人が参加し、約300人が被災したという想定で大規模な訓練が実施されました。

当日は、小雨の降る気温の低い日でしたが、防護服に身を包み、マスクとゴーグルを装着し、汗だくになりながら行いました。

訓練では、患者役40人を負傷程度に振り分け、医療関係者が治療の優先順位を判断し、放射性物質を簡易除染しながら、救護措置をとって行きました。

私たち弘前病院からの救護班4名は、現場トリアージ赤タグ(重篤な状態)と判断された方の救護を行いました。現場医師の判断のもと、脱衣(衣服を裁断)、挿管、創処置、骨折のシーネ固定などの処置の後、医療機関搬送までを、本番さながらに行いました。

実動訓練を終えて、各関係機関との連携、トリアージの重要性、さらに迅速な救護活動の必要性を実感しました。各患者さんに付けられているタグに、情報や状態を書き込んで行く作業に戸惑つてしましましたが、そのタグの状況に合わせて全体で動いて行くため、今回の体験を、もう一度振り返って学習し、様々な状況に迅速な対応ができるよう取り組んで行きたいと思います。

第7回青森県臨床研修医ワークショップin弘前



去る10月25日26日の二日間にわたり、弘前市立病院、健生病院、当院の3病院合同企画で第7回青森県臨床研修医ワークショップin弘前が開催されました。例年県内の基幹型病院を中心に、県内の初期研修医を対象に、臨床研修のための様々な課題・問題をテーマにワークショップ形式で行われているもので、今回は青森県内の初期研修医86名が参加、当院からは研修医1年目の佐藤 洋幸、岡本 剛先生が参加しました。多職種のそれぞれの役割を理解し、協力し合うことを考えるという目的で、「チーム医療を考える」というテーマで各病院からの企画をもとにワークショップ形式でコメディカルの方々にも参加していただき活発な討議がおこなわれました。当院からは周産母子医療センターの尾崎部長が周産期のチーム医療について基調講演を行い、研修医によるワークショップの司会を務められました。研修医の活発な意見交換、

発表がなされ、尊重し合うこと、協力し合うことの重要性などを説く意見が出されました。

市民公開講座では農村医療の先駆であり、かつ長寿県で知られる長野県の佐久総合病院附属小海診療所所長 北澤 彰浩先生より訪問診療を中心とした地域医療連携についての講演がございました。健康管理に関する啓発活動並びに健康相談員（ボランティア活動）を含め地域全体で支え合う枠組みを紹介していただきました。精力的な活動の一端を垣間見ることができ、根底にある啓発活動の重要性を認識させられた次第です。

裾野の広い医療現場で、よりよい連携とは何かを前向きに考えることと、互いの役割の理解を深めることは、実践の場で必ず役にたつことと思います。参加者並びに会の運営に尽力されました職員の皆様には厚く御礼申し上げます。

臨床研究部長：石 黒 陽



弘前大学 被ばく医療プロフェッショナル入学しました

私が「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」を受講するきっかけとなったのは、2011年3月11日に起きた福島第一原子力発電所事故です。原子力発電所内での負傷に対する救急医療や、放射性物質によって被ばくした周辺住民の方々のサーベイを行うために全国からとても多くの診療放射線技師が現地へと派遣され、当院からも放射線技師が一人派遣されました。このような状況で何もできない自分に不甲斐なさを感じ、その反面、われわれ放射線技師が病院外でも必要とされる状況があるのであれば、そのための知識や経験を得たいという意欲も湧きました。

「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」は県内の原子力関連施設や医療施設における医療専門家や、防災対策に関する行政機関における人材などの育成を、青森県との連携の下に推進することによって、地域全体の「原子力災害のためのより強固な体制整備」と「救急診療能力のボトム

アップ」を図り、青森県における被ばく医療の質の向上と活性化を目的としています。

本事業を受講することによって、私は各分野で著名な先生方の講義や緊急時を想定した実施演習など、普段の講習やセミナーでは得ることのできない経験をさせてもらっています。同じ受講生の方々は、消防職員や大学の教員、医師や看護師、保健所職員などあらゆる職種で、原子力災害などの緊急時においては先頭に立って職場を引っ張っていく立場にあります。そのような方々と面識を持ち、仲を深めることもできました。

放射線を利用する施設は原子力関係施設に限らず、医療用・工業用と多数存在します。万が一、被ばく医療が必要な状況が発生した場合、学んできた知識が生かせるように、また地域住民の方々の安心・安全に少しでも役に立てるよう努力していきたいです。

診療放射線技師：坂田 章悟



フォト in ひろさき

弘前各地の風景をお届けします。



シリーズ BFH ①



「赤ちゃんにやさしい病院・BFH(Baby friendly hospital)とは?その1」

当院は2007年にBFH病院に認定されました。BFH病院とは、開発途上国の赤ちゃん達の死亡率の高さがきっかけとなり、1991年に乳幼児の健康維持を守ることを目的にWHO・ユニセフから始まりました。貧しい地では、ミルクで育てられている赤ちゃんは完全母乳で育てられている赤ちゃんと比べて、下痢で亡くなる確率が15倍、肺炎で亡くなる確率が4倍高かったそうです。その背景には、家計にとって粉ミルクが高く、親が字を読めない為に、ミルク缶の説明書きが読めず、ミルクをとても薄めて赤ちゃんに飲ませたり、きれいな水が手に入らなかったり、哺乳瓶も消毒できないなどの結果、亡くなる赤ちゃんが多かったのだそうです。

もし、すべての赤ちゃんが生後4~6ヶ月まで完全に母乳で育てると毎年100万人以上の幼い命を救うことができるとWHOが推定しました。そこで、世界のすべての国の産科施設に対し、「母乳育児を成功させるための10ヵ条」を守ることをWHO・ユニセフが呼びかけました。そして、10ヵ条を採用して実践する産科施設を「赤ちゃんにやさしい病院」に認定するという方針を決めました。現在、世界ではBFH認定施設は1万5千にのぼります。わが国では2013年10月現在で67施設です。これは日本全国の出産施設の2.6%に当たります。

小児科医師：三上 珠希

「母乳育児を成功させるための10ヵ条」

- (1) 母乳育児についての基本方針を文書にし、関係するすべての保健医療スタッフに周知徹底しましょう。
- (2) この方針を実践するために必要な技能を、すべての関係する保健医療スタッフにトレーニングしましょう。
- (3) 妊娠した女性すべてに母乳育児の利点とその方法に関する情報を提供しましょう。
- (4) 産後30分以内に母乳育児が開始できるよう、母親を援助しましょう。
- (5) 母親に母乳育児のやり方を教え、母と子が離れることが避けられない場合でも母乳分泌を維持できるような方法を教えましょう。
- (6) 医学的に必要がない限り、新生児には母乳以外の栄養や水分を与えないようにしましょう。
- (7) 母親と赤ちゃんが一緒にいられるように、終日、母子同室を実施しましょう。
- (8) 赤ちゃんが欲しがるときに欲しがるだけの授乳を勧めましょう。
- (9) 母乳で育てられている赤ちゃんに、人工乳首やおしゃぶりを与えないようにしましょう。
- (10) 母乳育児を支援するグループ作りを支援し、産科施設の退院時に母親に紹介しましょう。



(WHO/UNICEF : The Ten Steps to Successful Breastfeeding, 1989)

「国立病院総合医学会に参加して”

「DPC対象病院での診療情報管理士の役割」

11月8日（金）・9日（土）の2日間、第67回

国立病院総合医学会が石川県金沢市で開催されました。今回の学会は「Vita Nuova（新生）！ 国立医療～新たなる船出に向けて～」というテーマでこれから変革に向けてのシンポジウムや特別講演が行われました。

私は国立病院総合医学会に初めて参加し、ポスター発表を行いました。

発表内容は私の勤務している診療情報管理室での取り組みについてです。

平成24年4月からDPC対象病院となり、DPCでは1入院期間で最も医療資源を投入した病名を判断するのですが、資源病名が適正かどうかを診療情報管理士として精査するのがメインの業務です。この精査体制は、平成23年のDPC準備病院の時から計画していたもので、適正な診療費の請求という観点からも最重要課題のひとつと考えていました。今回の発表は、その集大成です。

発表時間3分間ですが、傍聴する方の人数の多さに圧倒され長く感じました。同じ発表枠の

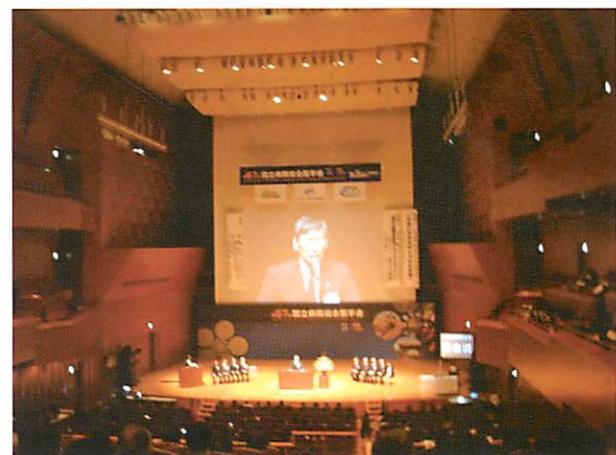


ポスター賞は、DPCから考える地域医療連携についての発表でした。

金沢市は、加賀100万石前田家の城下町で、歴史と文化が今も町並みとして残っています。有名どころでは兼六園や名所旧跡も数多く、四季それぞれの景色が楽しめる町です。郷土料理や和菓子もおいしく秋の情緒と味覚がいっぱいです。

城下町の風情を今に残し、ゆったりとした時の流れを感じさせる充実した2日間となりました。

診療情報管理士：黒滝 幸代



外来診療一覧

◆外来医師診療一覧表 (2013年12月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹	熊本秀樹
呼吸器科		中川英之 下山亜矢子	山本勝丸 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子	山本勝丸 下山亜矢子	中川英之 下山亜矢子
消化器・血液内科		間山恒 高杉かおり 佐藤年信 石黒陽	— 五十嵐崇徳 高杉かおり 石黒陽	五十嵐崇徳 高杉かおり 佐藤年信 —	間山恒 (隔週交代) 石黒陽	間山恒 五十嵐崇徳 佐藤年信 石黒陽
小児科		杉本和彦 三上珠希 千葉奈歩	佐藤工 千葉奈歩 久保かほり	杉本和彦 三上珠希 久保かほり	佐藤工 千葉奈歩 久保かほり	杉本和彦 久保かほり 千葉奈歩
外科		田澤俊幸	三上勝也	田澤俊幸	神寛之	三上勝也
乳腺外来		小田桐弘毅	小田桐弘毅	小田桐弘毅	櫻庭弘康	小田桐弘毅
整形外科	午前	柿崎寛 黒瀬理恵 神裕道	柿崎寛 黒瀬理恵 飯尾浩平	秋元博之 黒瀬理恵 神裕道	秋元博之 大石和生 —	柿崎寛 秋元博之 神裕道
	午後	—	—	—	—	柿崎寛
脳神経外科		—	—	木村正英	—	—
皮膚科	午前	熊野高行 佐藤正憲	佐藤正憲 熊野高行	佐藤正憲 熊野高行	熊野高行 佐藤正憲	熊野高行 佐藤正憲
	午後	●予約	●手術/検査	●予約	●手術/検査	●予約
泌尿器科	午前	神村典孝	神村典孝	村澤洋美	神村典孝	神村典孝
	午後	検査	検査	手術	検査	手術
産婦人科		木村秀崇	尾崎浩士	丹藤伴江	●妊婦健診	尾崎浩士
		木村恵理子	丹藤伴江	木村秀崇	(一般外来休診)	大石舞香
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子	黒田令子	●手術	黒田令子	黒田令子
		—	—	(一般外来休診)	—	—
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	—	—	川口英夫 (午後)	—	川口英夫 (午後)
女性専用外来		杉本菜穂子	(※予約制/第1・第3火曜日午後診療)			
セカンドオピニオン		—	—	—	今充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

お見舞の孫の笑顔が持参薬

(パパさん)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

お知らせ

編集委員会より

当院の広報誌『まほろば』は、地域に信頼され、納得の医療で地域に貢献しつつ、地域と協働して歩む病院づくりを目指し、地域の方々を対象に編集しております。皆さまから病院に対して『不安なことや不満足なこと』『ご批判やご指摘』また、『お褒めのことば』を職員一同お待ちしております。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：副院長 柿崎 寛

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>